

# 第 62 回 歴史探訪の会「楠正成と南北朝争乱の地を歩く」

実施日：平成 30 年 5 月 16 日(水曜)

場所：神戸市・中央区/兵庫区

案内人：澤田謙治

コース：JR 神戸駅～湊川神社～湊川公園～湊川隧道～会下山公園(昼食)～福海寺～福厳寺～能福寺～JR 兵庫駅

歴史探訪の会ではこれまでに楠木正成の生誕の地、千早赤坂村や正成ゆかりの観心寺を訪れましたが、今回は足利尊氏との湊川の戦いで敗れ自刃した場所など楠木正成と後醍醐天皇、足利尊氏にゆかりのある場所を中心に神戸の街を歩きました。各地で 25℃を超える「夏日」が観測された暑い日でしたが、19 名の方が参加されて、2 班に分かれ「ひょうご観光ボランティア」のガイドさんに案内頂きました。

## 【湊川神社】

JR 神戸駅から徒歩すぐのところにあるこの神社の御祭神は 1336 年 5 月の足利尊氏との戦い(湊川の戦い)で殉節した楠木正成。1692 年(元禄 5 年)に徳川光圀(水戸黄門)が『嗚呼忠臣楠子之墓』(あちゆうしんなんしのはか)の石碑(文字は光圀の書)を建立した。幕末から明治維新の頃には吉田松陰、坂本龍馬、高杉晋作、伊藤博文、西郷隆盛、木戸孝允等々幕末の志士がこの石碑を訪れている。

1868 年(明治元年)に明治天皇により神社の創建が命じられ、1872 年(明治 5 年)に湊川神社として創建された。

境内には楠木正成、正季兄弟が「七生滅賊」を誓って自害した場所とされる地、墓所、宝物殿、神能殿(能舞台)等がある。

神社内に能舞台がある理由として、能の観阿弥は楠木正成の妹の子、すなわち叔父一甥の関係、という説があります(異なる見解もあります)。



大楠公(楠木正成)墓碑



徳川光圀(水戸黄門)像

大楠公墓碑は四角の台座、亀趺(きふ)とその上に乗せられた碑石の3部分から出来ています。使われている石は碑石が正成の出身地、大阪の青和泉石、亀趺は後醍醐天皇ゆかりの京都の白川石、台座は終焉の地、神戸の御影石と、それぞれゆかりの地の石が使われています。

徳川光圀(水戸黄門)像は『嗚呼忠臣楠子之墓』を建立した事から、昭和 30 年に完成されたものです。

### 【湊川の戦いについて】

鎌倉幕府の滅亡(1333 年)から 3 年後の 1336 年(建武 3 年)、後醍醐天皇による建武の新政に不満をもつ武士達のリーダー足利尊氏は 2 月に新田義貞・楠木正成・北畠顕家らとの戦いで敗れて、九州へ落ち延びた。

楠木正成は後醍醐天皇に、状況が有利な今のうちに足利方と和睦する事を進言するが、後醍醐天皇はこれを退け、3 月に新田義貞を総大将とする足利尊氏追討の軍を西国へ向けて派遣した。この時、楠木正成は和睦を進言した事で朝廷の不評を買い、この追討軍からは外された。

新田義貞は播磨国の足利方の武将赤松則村(円心)を攻めるのに手間取り、その間に足利尊氏は九州で体制を立直して京都を目指して東進をはじめ、中国、四国で細川氏らの軍と合流し軍を進めた。足利尊氏軍の東進にともない赤松軍は新田軍に攻撃をしかけ、新田軍のなかには足利方に寝返るものもでてきて、新田軍は兵庫(現在の神戸市兵庫区辺り)まで軍を退いて立直しを図った。

足利尊氏の軍勢が京都に向かっていくとの報に、後醍醐天皇は楠木正成を呼び出した。楠木正成は一旦京都から撤退し足利軍を京都に引入れた後に楠木軍と新田軍で攻撃する作戦を提案するが、公家たちはこれに反対、後醍醐天皇も公家達の意見を受け入れ、兵庫で新田軍と合流し足利軍を迎え撃つ様にと楠木正成に命じた。正成は天皇の命令に従い、死を覚悟して湊川に向った。途中、桜井の駅(現在の大阪府三島郡島本町付近)で嫡男楠木正行と訣別するという話し(桜井の別れ)が伝わるが、史実ではないとの意見もあります。

1336 年 5 月 25 日、新田義貞は和田岬に、楠木正成は会下山(えげやま)に布陣して陸路と海路両方から進軍する足利軍を迎え撃つ体制をとったが、足利軍の水軍が兵庫よりもさらに東から上陸する動きをしたため、新田軍がそれを討とうと東に動いた隙について一部の水軍が和田岬に上陸、この為新田軍と楠木軍は分断されてしまった。孤立した楠木軍は足利尊氏、直義(尊氏の弟)の大軍を相手に奮闘するも力尽きて湊川で弟の楠木正季とともに自害した。



楠木正成・正季兄弟自刃の地



湊川公園にある楠木正成像

兵庫区役所に隣接する湊川公園には楠木正成像があります。現在区役所の建替え工事が進行中で正成像も囲いに覆われて仮置きされています。元々高い台座の上にあったものですが、仮置き場所では低い位置にあり、プラスチックの囲いを通してですがまじかに見る事が出来ました。

### 【湊川隧道】

明治時代の湊川は度々氾濫し洪水をおこしていたが、1896年(明治29年)に大洪水が発生、これを機に河川改修が行われ会下山(えげやま)の下をトンネルで流れる日本最初の河川トンネルとして1901年(明治34年)に完成。その後、1995年(平成7年)の阪神・淡路震災で損傷した為、新たに新湊川トンネルが建設され2001年に完成した後河川トンネルとしての100年役目を終えました。現在、湊川隧道は定期的に一般公開が行われ、トンネル内ではコンサートが開かれたりしています。



湊川隧道の入り口前で



新湊川トンネルの出口

### 【会下山公園】

足利尊氏と新田義貞、楠木正成との湊川の戦いの際に、楠木正成が本陣をおいとされており、神戸の街を広くのぞむ事ができます。公園内には『大楠公湊川陣之遺蹟』の碑があり、この碑の文字は日露戦争でロシアのバルチック艦隊と戦った東郷平八郎によって書かれました。又、この公園は神戸の桜の名所のひとつでもあります。



『大楠公湊川陣之遺蹟』の碑



会下山に登る道は少々きつい？



会下山公園にて

### 【西国街道西の惣門跡】

西国街道は現在の JR 兵庫駅から柳原蛭子神社と福海寺の間あたりから兵庫の町にはいって、この場所に惣門が設けられていました。

惣門とは街道筋に設けられていたもので、「検め番所」として往来する人々を監視していたと言われています。

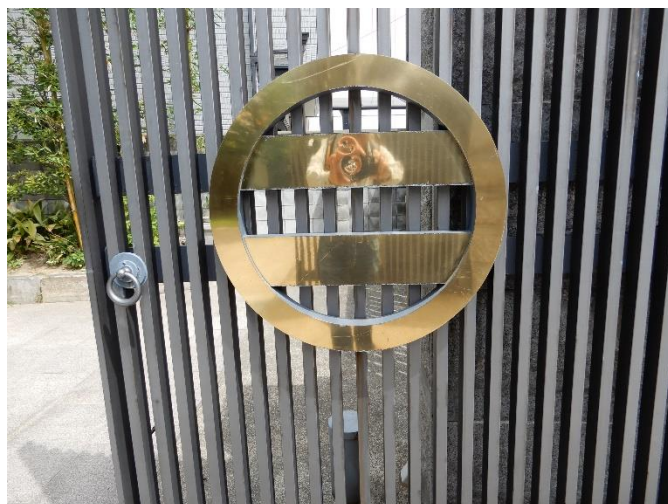
### 【福海寺】

正式には「大光山福海興国禅寺」という臨済宗南禅寺派の寺院。足利尊氏が在案圓有を招聘して 1344 年に創建され歴代足利将軍に尊崇された。本堂には足利尊氏が書いたと伝わる『福海興国禅寺』の額が掛かっている。1336 年京都での戦に敗れた足利尊氏は新田義貞の軍に追われていたが、この付近にあった「針が崎観音堂」(福海寺の前身)に身を潜め、かろうじて一命を取り留めた。その後九州へ落ち延び、軍勢を立直して京都を目指して東進し、湊川の戦いで勝利する。1338 年征夷大将軍に任じられ室町幕府を開いた足利尊氏は一命を取り留めた「針が崎観音堂」への報恩と戦没者の供養の為に福海寺を開いた。寺の門には足利家の家紋である『足利二つ引き』が配されています。





「開基征夷大將軍足利尊氏公」と書かれています



門には足利家の家紋

### 【福厳寺】

臨済宗南禅寺派の寺院で仏僧国師が開いた寺で、創建の時期は不明だが14世紀初め頃とも言われている。1333年(元弘3年)に後醍醐天皇が隠岐を脱出し京都へ向かう途中に立ち寄った寺の一つとされている。その際、赤松則村(円心)や楠木正成など数千の武士が出迎えた。尚、後醍醐天皇が福厳寺に滞在のおり、近くの寺院から薬水を献上したとされ、その寺は薬仙寺の名前を賜ったと云われ現在も和田岬にあります。門前には「史跡後醍醐天皇駐蹕之處」の碑があります。



### 【能福寺】

伝教大師(最澄)によって開かれた天台宗の寺で、805年に創建されたと伝わる。平氏ゆかりの寺院でもあり平清盛が福原遷都にあたって祈願をした寺であり、又、清盛が出家をした寺とされている。1891年(明治24年)には大仏が建立され、奈良、鎌倉の大仏と共に日本3大仏とされていた。しかし、太平洋戦争時代の金属回収令で国に供出された。現在のものは1991年に再建されたものです。又、神戸事件の責を負って切腹した瀧善三郎正信の碑があります。神戸事件とは、慶応4年(1868年)1月に西宮警備を命令された備前藩兵が大砲を引いて西国街道を通過中に、三宮神社前で行列を横切ろうとした、フランス人水兵を槍で刺傷させ、神戸の町が一時、外国兵によって占拠されました。この事件では全責任を負って同年2月に兵庫の津、永福寺で外国人代表らの立会いの面前で瀧善三郎正信が切腹して結着しました。





能福寺 兵庫大仏の前で

- ・写真は上西さん、田原さん、岸場さんが撮影されたものを使用させて頂きました。
- ・「ひょうご観光ボランティア」の皆さんありがとうございました。